

令和3年度 新型コロナウイルス感染症対応市民活動チャレンジ助成事業 交付決定団体

番号	団体名 事業名	交付決定額	事業内容
1	女性を元気にする会	¥821,000	コロナの影響で増加した困窮・貧困世帯へ食糧支援を行う。また、食糧支援を行いながら、必要に応じて行政や社会福祉協議会、グッジョブセンターや主任児童員につなぐ。時には、一緒に同行し一歩前へ踏み出すチャンスときっかけ作り自立支援へと導く。
	「食料支援を通して繋がろう！みんな笑顔で一歩前進！！」		
2	一般社団法人 災害プラットフォームおきなわ	¥1,000,000	コロナ禍や災害発生後も地域活動や市民活動を強くしなやかに継続できる体制や準備を行うための社会資源調査やマニュアル整備、協働の体制づくりを行う。①横断的に役割や関係性を整理し、地域防災力や行政も含む連携体制の構築を図るきっかけをつくる。②専門家による調査設計を行い、小学校区まちづくり協議会と連携したアンケート調査や定期的な情報共有・発信を通して緊急事態下における各協働先の対応イメージを共有する。③それぞれの立場(現場・市民、地域・コミュニティ、中間・後方支援組織)から、ヒアリングを行い共通認識や共通言語を作っていく。
	アンダーコロナにおける「なはまち・うみやま防災連携モデル」調査事業		
3	ゆいまーるの会	¥1,000,000	高齢者の居場所づくり(憩いの場サロン、コロナ禍自粛により、孤独にならないよう人との繋がりをもてる場)、行政サービスへの橋渡し(ホームレスや食料支援を必要としている家庭など)、牧志公園にて定期的に生活困窮者へ食料品の無料配布を行う。
	ゆいまーる事業「生活困窮者への食料品無料配布及び高齢者の居場所(憩いの場)提供事業」		
4	多文化ネットワークふふ！沖縄	¥1,000,000	コロナ禍において、情報弱者である外国人市民の不安・不満・不信感は増大している。情報伝達・共有の格差課題解決のため、①やさしい日本語でネットワークミーティングの実施、②前年度実施したアンケート調査結果の振り返りを外国人市民を中心に行い、1年前と現在の状況や体験を共有し気軽にゆるく長く繋がる会をオンラインにて実施、③ニュースレターの発行を行う。
	やさしい日本語と一緒に考える・創る・変わる ～那覇市多文化共生推進ネットワーク構築2021		
5	一般社団法人 観光危機管理研究所	¥992,000	在住外国人へ迅速に正確な情報を継続的に発信(定期セミナー、出張セミナー、オンライン)し、クラスター対策及びワクチン接種等の行動につなげる。
	コロナ禍における在住外国人へのリスクコミュニケーション事業		
6	一般社団法人 沖縄命の電話	¥499,000	不安や悩みのある方の手助けのきっかけ作りとして、①これまでの活動報告や講師を招いての講演会、シンポジウムの実施、②月に2～3回、公民館やスーパーなどに相談ブースを設け無料相談を行う
	『沖縄命(ぬち)の電話』事業		
7	山城塾(無料塾)	¥490,000	新型コロナの感染拡大による休校で、生活リズムが乱れ学習に遅れが生じやすい発達障がいのある児童生徒や不登校に陥りやすい児童生徒への学習支援、生活支援を行う。新しい教育方法(イェナプラン教育・異年齢集団で行う教育方法)を試行的に取り入れ、教育機器(パソコン、タブレット)を使いこなせるよう指導し、楽しく学び、それを使って在宅での学習も可能にする。
	コロナ禍において、発達障がいや非行等課題のある子ども達への学習支援生活支援と居場所づくりで、生きる力を育成する		
8	那覇市大名小学校区まちづくり協議会	¥240,000	新型コロナウイルスワクチン接種支援。 事前準備として関係者を対象に感染症対策専門家による研修会の実施、ワクチン未接種者の洗い出し・連絡・予約、ワクチン会場への送迎、他地域展開のための情報共有・報告会
	近所で近助 高齢者サポート事業		
9	繁多川婦人会	¥220,000	コロナ禍における引きこもりや精神的に不安定な家庭へのサポート、また地域見守りのため、老人世帯・こども食堂等へ食品提供を行う。さらに、新型コロナウイルス感染症に負けない毎日過ごすため、医療現場からの「正しい情報提供」、「健康生活に役立てる具体的な提案」講演会を行う。
	「笑顔を取り戻す活動@繁多川婦人会の取組み」 フードドライブで目指す地域見守りたい(隊)ー		
10	銘苅新都心自治会	¥498,000	コロナ禍で自治会活動が制約される中、ICT環境構築により自治会活動への理解向上と新会員及び人材発掘、自治会の新たな役割や能力を向上させる。自治会ホームページの開設運用(情報発信)、WEB会議開催の環境整備活用(情報共有・課題発掘)、住民アンケート調査(情報共有・課題発掘)。
	自治会ICT環境構築活用事業		
11	曙小学校区まちづくり協議会	¥380,000	コロナ禍の中で外出機会が減少した人にも集まりやすいパーラー公民館を地域の拠点とし実施。いつ起こるか分からない災害に対し、コロナ禍だからこそ必要な地域防災の必要性を防災講話やリカヤールキャラバンイベントを通し、さらに意識づけていく。
	パーラー公民館からつなぐ地域防災事業		
12	沖縄国際大学 Real	¥146,000	新型コロナによる不安や情報不足は、学生の将来に大きな影響を与えていることから、コロナ禍での学生生活や就職活動、留学や奨学金の情報など学生が今必要としている情報を届け、実りある学生生活を送れるよう支援する。学生向けのフリーマガジンを発行し、大学や専門学校、周辺コンビニ、学生が利用するスペースにて配付する。
	コロナに負けない！沖縄の学生を応援するフリーマガジンの発行事業		
13	インクルーシブコミュニティ教育沖縄 Education for Inclusive Communities Okinawa <EIC>	¥188,000	「インクルーシブコミュニティワークショップ」(トピックやアイデアを共有しながら、ストーリーの創造を通して、コミュニケーションを深めていく)を開催。 *「ストーリーテリングワークショップ」で地域コミュニティ参画につなげる。コロナ禍で浮き彫りになった「つながりの大切さ」をきっかけに、地域コミュニティへの関心と共通の価値観を育み、関係性を構築することにより、困難が起こっても地域コミュニティで支えることができる。
	コミュニティワークショッププロジェクト ～ストーリーテリングを通してつながる～		
14	特定非営利活動法人 困窮者支援ネットワーク	¥100,000	コロナ禍により、経済的な問題や外出できない高齢者へ無料で弁当を配付する。食支援のみならず、独居老人の状況把握も行い孤独化、孤食を防ぎ、必要な各関係機関への繋ぎを行う。
	生活が困窮している母子家庭・困窮世帯の生活状態調査と弁当を届ける事業		